



学びの庭

学校教育目標

知・徳・体の調和のとれた児童の育成を図り
児童一人一人のよさと可能性を伸ばす。

〒400-0814 山梨県甲府市上阿原町491番地 電話 055-233-2447 FAX 055-233-2451 E-mail: tamamoro-e@es-jhs.kai.ed.jp

創立 明治5年
1872年

令和5年(2023年)9月29日

発行責任者 校長 山本英寿

全国学力・学習状況調査における本校の状況

本年度の「全国学力・学習状況調査」は、4月18日に全国の小学6年生と中学3年生を対象に実施されました。小学校6年生については、国語と算数の2教科で行われました。

この調査は、児童の学力や学習状況を把握し、その結果を分析することで、県や学校ごとの課題を明らかにすることにより、今後の指導の充実や授業改善等に役立てることを目的としています。調査内容は、①教科(国語・算数)に関する調査、②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査で構成されています。

そこで、今年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたのでお知らせします。

分析結果の概要



1 本校の状況

本校の学力の状況は、国語・算数ともに正答率において全国平均・県平均を上回っている結果となりました。

これは本校の教育活動において、基礎基本の定着が図られた結果であり、また、習得した知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力が身に付いていると考えられます。

質問紙調査からは、自己肯定感、規範意識の高い児童が多く、やる気をもって学校生活を過ごしていること、家族や友達との関係が良好な児童が多く、安定した環境で生活できていることが読み取れました。また、地域行事や社会への関心が高いこと、全ての学習や家庭での学習にも意欲的に取り組んでいること、もうかがえました。一方、ICTを利用した学習などについては、課題が見られました。

令和5年度 全国学力・学習状況調査 教科別平均正答率

		国語	算数
全 国		67.2	62.5
山 梨 県		66	61
玉諸小	全国との比較	◎	◎
	山梨県との比較	◎	◎

◎：上回っている

○：同等

△：下回っている

※ 平成29年度から、県及び各学校等の平均正答率は整数値で発表されています。

2 教科別の結果についての考察と今後の取り組み

教科に関する調査の内容は、次の①と②を一体的に問う問題が出題されています。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等についての問題
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容の問題

□ 国語

○ 国語については、全国及び県の正答率を上回る結果となっており、標準以上の力が身に付いていると言えます。領域別では、

- ・ 「話すこと・聞くこと」で、全国及び県の正答率を大きく上回っていました。
- ・ 「書くこと」「読むこと」では、全国及び県の正答率を大きく上回っていました。
- ・ 「情報の扱い方に関する事項」については、全国及び県の正答率を上回っていました。
- ・ 「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、全国及び県の正答率を上回っていましたが、漢字や敬語などの問題によっては全国及び県の正答率を下回っている設問もありました。



今後の取り組み

国語では、調査結果の分析を踏まえ、次のように取り組みます。

- 「読むこと」→文章の中の重要な語や文に線を引いたり、色分けしたりして文章の内容を捉えさせる指導や文章の中心となるところを明らかにしてまとめたり、自分の考え等の理由を明らかにして書いたりする指導など、言葉に着目し言葉を大切にしたいきめ細かい丁寧な指導を継続していきます。
- 「書くこと」→事実や感想、意見とを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。また、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することを大切にしながら指導を積み重ねていきます。
- 「話すこと・聞くこと」→目的に合わせて話の内容を正しく聞き取るために、話のまとまりに気を付けて、要点をまとめてメモを取りながら聞いたり、聞き手を意識した話す場の設定や話し方のモデルや話型を形成したりして指導の工夫を図っていきます。
- 「情報の扱い方に関する事項、言葉の特徴や使い方に関する事項」→漢字の習得については、継続的な反復練習だけでなく、短文作りなど活用を意識した取り組みも行っていきたいと考えています。また、敬語においても場面に応じた言葉遣いについて話し合ったり、具体的な場面を想定して会話の練習を行ったりする中で場所や状況を考えた話し方を身に付けるためのスキルの側面と相手の気持ちを考える心情的な側面を高めていきます。さらに、情報の扱い方については、目的に応じて、文章と図表等を結び付ける等して必要な情報を見つけられるようにすると共に、目的に応じて必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構成したりする活動を大切に指導を行っていきます。

国語科は、様々な事物、経験、思い、考えなどを、言葉を使って理解し、どのように表現するのかということを学ぶ教科です。つまり、言葉で考え、表現する能力を育成する教科であるといえます。今後もさらに授業中の言語活動（書く活動、発表する活動、話し合う活動等）の充実を図り、児童の国語力の向上を目指します。また、授業だけでなく学級活動などの日常活動においても、自分の考えを分かりやすく伝える場を意図的に設定し、言語活動の日常化をさらに推進していきます。

□ 算数

○ 算数については、全国及び県の正答率を上回る結果となっており、標準以上の力が身に付いていると言えます。領域別では、

- ・ 「変化と関係」「データの活用」は、全国及び県の正答率を大きく上回っていました。
- ・ 「図形」は、全国及び県の正答率を大きく上回っていましたが、正答率が低い設問がありました。
- ・ 「数と計算」は、全国及び県の正答率を上回っていましたが、正答率が低い設問がありました。

今後の取り組み

算数では、調査結果の分析を踏まえ、次のように取り組みます。

- 「数と計算」→基本的な計算の仕方は理解していますが、式が表す意味や、かけ算やわり算の性質など、計算の基となる考え方には、表面的な理解にとどまっているところもあるようです。友達が立てた式から考えを推測したり、計算方法の意味を何度も確認したりすることが必要です。また、四則の混合した式において、計算の順序についてのきまりを基に、複数の式を一つの式に表す活動を取り入れ、加えて、計算の仕方を単に暗記するだけではなく、具体的な場面と関連付けながら確実に理解できるようにすることが重要です。振り返りのために、授業だけでなくたまごの時間や家庭学習なども利用して、定期的に練習に取り組むことで定着を図っていきます。
- 「図形」→図形領域の問題においては、日頃から具体物を使って問題をとらえる活動を通して、図形についての見方や感覚を豊かにしていきます。特に辺の長さや角の大きさなどに着目して、図形の意味や性質を基に、作図の仕方を考えたり、筋道を立てて説明したりすることができるように指導の充実を図ります。
- 「変化と関係」→割合、基準量、比較量の関係を捉えられるように、数量の関係を図や数直線等に表す学習活動を取り入れ、それらの図や式を用いて思考の過程を説明させたり、他の児童がかいた図や式等を解釈して説明させたりするなど指導を工夫していきます。
- 「データの活用」→標題や単位、目盛りなど、グラフを正しく読ませ、グラフを見て考えたことを理由や根拠を挙げて説明させる活動を多く取り入れいきます。また、棒グラフや円グラフなど、グラフの意味の理解を深め、全体と部分、部分と部分の関係を捉える指導を工夫していきます。算数科においても、言語活動の充実が重要だと考えます。普段の授業から日常的に、数直線や表を思考のツールとして活用させ、正しい数量関係を意識させてから立式する活動や、いくつかの情報を関連付けて考える活動に取り組んでいきたいと考えています。そして、考えたことを相手に分かりやすく伝えられるようノートに整理する活動や、その考えをもとに交流する場面を設定していきたいと考えています。これらの活動を通して、筋道を立てて論理的に考えることや、他者から共感を得ることで、学ぶ楽しさを実感させていきたいと考えています。



3 生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査から

◇ 全国や県と比較し良好と思われる項目

○ 自己肯定感・規範意識等

- ・ 将来の夢や目標を持っている。
- ・ 自分にはよいところがある。
- ・ 先生は、あなたのよいところを認めてくれる。
- ・ 人が困っているときは、進んで助けている。
- ・ 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある。
- ・ 友達関係に満足している。
- ・ 学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いのよさを生かして解決方法を決めている。

自己肯定感、規範意識の高い児童、ものごとを前向きにとらえ積極的に取り組む児童が多く、やる気を持って学校生活を送っていることがうかがえます。また、児童が教員の指導や児童への関わり方に対して肯定的にとらえている傾向が見られ、良好な人間関係を築くことができていると言えます。さらに、よりより学校生活を過ごすため、学級で協力し合って生活していることも見て取れます。これらのことが安心して学校生活を送る基盤となり、学習にもよい影響を与えていると考えられます。

○ 基本的な生活習慣・社会への関心等

- ・ 朝食を毎日食べている。
- ・ 毎日、同じ時間に寝ている。
- ・ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている。
- ・ 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思っている。
- ・ 日本や住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う。

生活習慣については改善傾向が見られ、家族との関係、友達との関係も良好な児童も多く、安定した環境で生活を送ることができていることがうかがえます。これからもご家庭で温かく励まし、見守っていただきたいと思います。また、新聞を読んだり、地域や社会、外国のことに興味を持ったりしている児童も多い傾向にあります。一方で、コロナ禍の中で、地域の行事等が実施できない状況が続いておりましたが、今後も地域の行事への参加についての啓発活動を一層推進し、地域を誇りに思う心や地域とともに学習する基盤をしっかりと整えていきたいと考えています。

○ 学習について

- ・ 家で、自分で計画を立てて勉強をしている。 ・ 授業で学んだことを、他の学習に生かしている。
- ・ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする。
- ・ 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる。

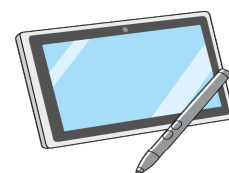
宿題等に真面目に取り組み、自分で計画を立てて、家庭学習に積極的に取り組んでいる児童の割合が全国・県平均と比べて大きく上回っています。また、平日に1時間以上家庭学習をしている児童の割合も高く、家庭学習への積極的な取り組みが学力の定着、向上によい影響を与えていると考えられます。これからも「学年×10分+α」の家庭学習の定着をご家庭と連携しながら推進していきたいと考えています。学校においては、今後も甲府市教育委員会が推進している「甲府スタイル」を取り入れた授業づくりをはじめ、児童の学習意欲を喚起し、学習内容の活用を意識できる授業づくりに取り組んでいきます。

◆ 全国や県と比較し課題と思われる項目

● 授業に関して

- ・ ICT機器を活用している。

本校においてもGIGAスクール構想の展開により、ICT活用の取り組みを進めています。今後も調べ学習、プレゼンテーション、思考の可視化、学習過程の記録、ドリル学習など、ICT機器を活用した「わかりやすい授業」を実践していきます。また、家庭へ持ち帰り、ICT機器を活用した家庭学習も進めていきたいと考えています。



ご家庭の皆様へ

本年度の全国学力・学習状況調査の結果から、本校の児童が夢や希望を持って、友達とともに意欲的に学校生活・家庭生活を送っている様子が見て取れ、学習面・生活面ともに着実に成長していることが分かりました。これらは、ご家庭での教え、支えがあればこそのことです。特に、質問紙調査にある「平日に1時間以上家庭学習をしている児童」の割合も高く、家庭学習への積極的な取り組みが学力の定着、向上によい影響を与えていると考えられます。これも、ご家庭のご協力による成果だと思います。今後も本校では、子どもたちが自主的に学習に取り組むことができるよう積極的に働きかけを行っていきますので、ご家庭におきましても家庭学習の習慣が一層定着できますよう、「家庭学習のてびき」を参考にして学習環境を整え、声かけをしていただくなどのご協力をお願いします。一方、テレビゲーム等に費やす時間が長い傾向が見られます。家庭でのルールづくりなど、基本的な生活習慣を見直し、引き続き望ましい生活習慣が身に付けられるようご協力をお願いします。

激しい変化が予想されるこれからの時代に必要な、「自ら進んで学ぶ」気持ちや、「学ぶことが楽しい」と思える玉諸小児童を育てていきたいと考えています。今後とも、より充実した教育活動を行っていくことができますよう、変わらぬご理解とご協力をよろしくお願いたします。

玉諸小ブログ2023や
学校だよりのHP版
をご覧ください。

